

学生発表会

中学生の情報端末の使用経験とキーワード検索の活用状況との関連性

教育デザインコース 技術領域
綦 妍

1. 問題と目的

21世紀は「知識基盤社会」の時代と言われている。これからの社会を担う子供たちに対し、学校教育が育成すべき能力の一つとして「情報活用の実践力」が挙げられる。コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用した実習が重要となるが、その中でキーワード検索は、基本的かつ重要な操作として位置づけられる。

本研究の目的は、情報端末の使用経験とキーワード検索の活用状況との関連性について調査・分析し、明らかにすることである。また、その結果を基に、中学校技術・家庭科技術分野「情報」の内容において、教師が学習指導する上での留意点を検討することである。

2. 方法

調査対象 2013年4月に神奈川県内公立中学校1校の第2学年の生徒116名を対象として調査を実施した。

調査票の作成 情報端末の種類は、パソコン、スマートフォン、スマートフォン以外の携帯電話、タブレット端末の4つを取り上げた。情報端末の種類に当たっては、経済産業省が2013年2月に実施した調査において中学生が所有している情報端末を参照した。調査票は、「Ⅰ. 情報端末の使用経験について」及び「Ⅱ. キーワード検索の活用について」の2部構成とした。

3. 結果と考察

① 集計の結果、情報端末の使用経験は、趣味や遊びの用途である生徒の回答の割合が高かった。キーワード検索についても、趣味や遊びの目的である割合が高く、キーワードを1つ入力して検索することや、キーワード入力の途中で表示される候補の中から選択して検索するケースが多かった。

② キーワード検索の使用目的の「勉強のための情報を探す」や「パソコンなどの中のファイルを探す」は、生徒が回答した割合が比較的高いものではなかったが、操作方法の「キーワードをかえて検索し直す」と有意な

関連性が示された。

③ キーワード検索の活用の場面における学習指導を3つの段階すなわち、教育課程におけるキーワード検索の活用の場面確認、中学校技術・家庭科技術分野での学習指導上の留意点の整理、具体的な教育実践とのつながりについての考察の段階を踏んで行った。具体的な教育実践は、情報モラルに関する問題事例を収集する学習活動を試案した。

4. 教育デザインフォーラムでの発表の報告

発表で使用したポスターを図1に示す。技術領域の院生はもちろんのこと、他領域の院生とも議論が交わされた。得られた意見は、研究をまとめる上で活かしたい。

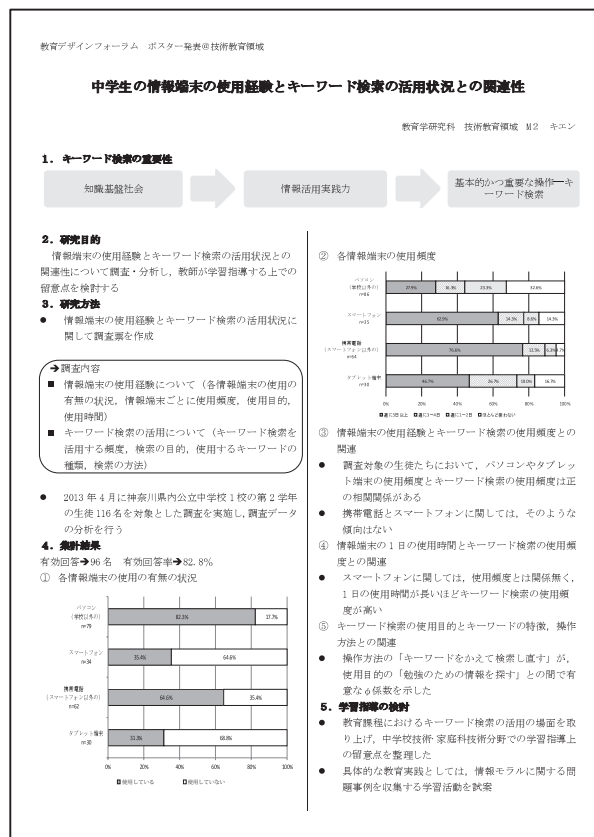


図1 発表ポスター